

## 【取組内容①】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用」

番号	氏名	【まとめ・振り返り】	分数（1）2時間目【まとめ・振り返り】	分数（1）4時間目【まとめ・振り返り】
1		小さい分数にすることを約分するという、いい。	<p>（まとめ） 約分するときは、<b>最大公約数</b>で割ればよい。 分母のうち分数を分母が同じ分数にすることを<b>通分</b>するという。通分するときは、<b>2つの数の公倍数</b>が分母にくる。</p>	<p>（まとめ） 通分するときは、分母を2つの分数の<b>最小公倍数</b>にする。</p>
2		の公約数で割ればよい。	<p>課 等しい分数を使って、分母の違う分数の大きさを調べよう。 約分するときは普通分母をできるだけ小さい数にするために、<b>最大公約数</b>で割るとよい。 分母の違う分数を、分母が同じ分数に直すことを、「<b>通分</b>する」という。 分子と分母の<b>公倍数</b>が分母に来る。 →どちらの分数が大きいかが、分かる。</p>	<p>課 通分の仕方を考え、説明しよう。 <b>まとめ</b> 通分するときは、公倍数で割ります。 通分するときは必ず<b>最小公倍数</b>で割ります。 振り返り</p>

ツール

Teams, Excel

- Teamsで、振り返りカード（Excelで作成）を共有する。
- 児童は、友達の考えと比較したり、友達の考えを参考にしたりしながら、自分の考えを記入する。



成果○・課題△・活用のポイント◇

- 1枚のExcelシートの中に、毎時間の振り返りがポートフォリオ的に残っていくこと、友達の振り返りをいつでも参照できることから、今までの自分の考えや友達の考えを参考にし、学びを深めることができた。
- ◇ Teams内でExcelシートを作成すると、容易に共有することができる。また、同じ方法で、WhiteboardやPowerPointを共有し、共同編集することもできる。

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

松山市立姫山小学校（愛媛県）

## 【取組内容③】「端末の日常的な持ち帰りによる、クラウドを活用した家庭学習の充実」



ツール

クラウドサービス

- クラウドサービスを活用して、次時の問題を児童が宿題で提出する。
- 教師が事前に解答を確認し、実態把握をしておく。
- 多様な意見を交流する際には、考え方が分かる写真を送り合って確認する。



## 成果○・課題△・活用のポイント◇

- 個人での課題解決を家庭で行うことで、苦手意識のある児童はじっくりと時間をかけて解いたり、授業内では対話的な活動の時間の確保ができたりと、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」につながった。
- △ 授業準備や、児童の回答把握に一定の時間を要する。

【取組内容③】「端末の日常的な持ち帰りによる、クラウドを活用した家庭学習の充実」

178  
1分毎の正解率  
経過

94%  
正解率

4 参加者  
1 出席  
2 退席

5  
総発言回  
経過

0:00 / 0:35

自動録出 プレビュー 中

学生に完全収録レポートを送る 編集

言っ て 写真をもとに 話そう

ぼくは、この写真から、てんとう虫がとぶ練習をしている様子を想像しました。

まず、大きく広げた羽を見てください。今、**よさ**に**とびたとう**としています。

このてんとう虫は、とべるようになったばかりかもしれません。

その様子を、つくしも おうえん しているようです。

周りには 黄色い花 も見え、あたたかな 春の景色 が広がっています。

大人になっ た てんとう虫 が、うれしくて「**ぼくもとべるよ!**」と 言っているように感じました。

ツール Teams

- Teamsで音読資料を配布する。
- 児童は配布された資料を見ながら音読を録画し、Teams上に提出する。
- AIによる自動採点の正解率を確認し、その点数を児童に返却する。

受講者の検索	12/10 宿題 音読 ウミガメの命をつなく 2023年12月10日・100点	12/7 宿題 音読 ウミガメの命をつなく 2023年12月7日・100点
♠ クラス平均	77.6%	72.7%
● 児童名	90.3%	93
	75.8%	86
	63.7%	90
	85.7%	88

成果○・課題△・活用のポイント◇

- 普段様子が確認しづらい「音読」への取り組み方を確認することができた。
- 正解率を得点とすることで、児童の意欲向上につながった。
- 日々の得点が自動で蓄積され、平均得点等も出るため、児童の実態把握につながった。
- ◇ Teamsに教科書の本文をアップロードするための準備が必要になる。

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

松山市立姫山小学校（愛媛県）

## 【取組内容④】「対話的・協働的な職員会議・教員研修」

主体的な学び				対話的な学			
<p>子どもたちがさまざまな方法（写真・実演・マップなど）で伝えていたことから伝えたい思いが伝わってきました。</p>	<p>子どもたちの伝えたい、知ってほしいという思いがよく伝わってきました。</p>	<p>身近なことを題材にしていたので、分からない言葉も自分なりに翻訳して伝えようとしていた。</p>	<p>ディクシャが話した言葉聞き取れなくても、粘り強く理解しようとする姿がすばらしかった。</p>	<p>発表しているときに助けを求める相手が先生ではなく、クラスの友達だったことがよかったです。</p>			
<p>一生懸命ディクシャ先生に姫山のよさを伝えようという意識をもって全員が取り組んでいたと思います。</p>		<p>外国語をつかって伝えたいという気持ちがあったためヘルプミーと助けをもとめることも、みんなで字ぼうという意欲を感じました。</p>	<p>help meのよびかけに、みんなが一生懸命に考えている姿勢がとてもよかったです。</p>				
<p>すぐにヒントや答えを尋ねず、自力自分たちの力で答えが導き出せるように日々練習しているのだと感じた。それが主体的な学びにつながっていると感じた。</p>			<p>ディクシャ先生の紹介し、質問を受けることで対話ができている。</p>	<p>発表をしている子どもたちが助け合いながらともに発表をしたり聞いたりしていることがよかったです。</p>			

ツール Whiteboard

- 研究授業を参観した後、各自の意見をWhiteboardに記入する。
- 研究協議の視点などでカードの色を決めておくと、話題がそろいやすい。



### 成果○・課題△・活用のポイント◇

- 職員会議や教員研修の話題や視点に合わせて、Whiteboardに用意されているテンプレートを選択することにより、話題を明確にしたり、意見の集約を容易にしたりすることができた。
- △ 会議・研修前の準備等に時間を要することがある。